

昭和中生がチャレンジウィークで職場体験

昭和中学校では、11月6日から9日までの4日間、2年生が「チャレンジウィーク」を体験しました。これは、生徒たちが働くことの大切さや楽しさ、自分自身への新たな気づき、そして人との関わり方など多くのことを学ぶために行われているもの。

4日間におよぶ職場体験には、2年生65人が参加し、生徒それぞれが選んだ農業や製造業、福祉施設や保育園など村内27か所の事業所で仕事を体験しました。

生徒たちが職場を選んだ理由は「将来なりたい職業」や「興味があつたから」などさまざま。職場体験の感想では「不安もあつたけれど、仕事を体験してみてもよかつた」や「はじめは大変だつたけれど、仕事に慣れてきたら楽しい」など、初めて接する仕事と、普段接することの少ない働く人たちとの交流を通して、仕事の楽しさや厳しさなどを学んでいました。



すーぱーこいけでレジを担当



吉野牧場で子牛のえさやり



道の駅ことぶき亭で仕込み作業



グリーンリーフでこんにやくの加工

昭和中生が中学生議会で政策を提言

この日は、3年生73人が参加。2組に分かれて議事が行われました。生徒たちは、村の基幹産業である農業の就業者数減少への対策や、高齢者ドライバーの交通事故対策など、村の様々な課題について村執行部に質問。また、「道の駅の農家レストランでサラダバーの設置や、旬の野菜を使った料理を提供してはどうか」や「村を美しく保つため子どもたちも清掃活動をしたほうが良い」といった政策の提言も行いました。

昭和中学校3年生による中学生議会が11月13日、村役場の議場で行われました。この議会は、生徒たちが実際に議会を体験することで、村政に関心を持ってもらい地方自治の仕組みを知ってもらおうと毎年行われており、今年で14年目。



議事をスムーズに進める議長



自分の意見を堂々と発表



実際の議会さながらに行われた中学生議会